

映画の小箱

南の島の小さな教会で、たった6人の、祝福と慈愛に満ちた結婚式。ビーチに戻る2人を待っていたのは…。

『ラスト・ウェディング』

美しいおとぎ話にも似たアートな結婚式

金丸弘美=文
text by Hiromi Kanamaru

こんなに美しい結婚式はみたことがない。これはドラマというよりも、結婚をテーマにした、見事なアートだ。キャンパスはオーソトリアアのロットネス島。

この島の薄いベージュの、さらさらとした砂浜の感触までが伝わってきそうな真砂。海の底までが透き通った海原の群青。青といっても、それを透明な青から濃い藍色まで、グラデーションは無限に広がっているかのようだ。空の雲の白さといえは、さらりとした白から無垢のふわりとした温かみのある白。空の青さも、蒼、碧、藍、それもさらさらと輝く宝石のようなもので、思わず手にとってみたくなるほどだ。

基調は、白、青だけといってもいいのに、その色合いの豊かさは、どこまで続くのだろうと息を呑むほどだ。

島に四人がやってくる。だがどんな仕事をしているのか、どんな過去があるのかは、ここではほとんど触れられない。目的は、ただ一つ、結婚式なのである。だが、だれしも、これだけの結婚式をあげられたらと、ため息をつくに違いない。それほどに、色彩の鮮やかさ、見事なシチュエーション、ドラマチックな構成に、圧倒されるだろう。

ハリー（ジャック・トンブソン）は、もう中年過ぎだ。彼は、恋人のエマ（ジャクリーン・マッケンジー）とともに、友人のヨットの船長デビッド（エデン・ジレット）に頼んで、ロットネス島へ向かうことになる。もう一人同船者が呼ばれている。エマの昔のルームメイトで、色白のエマとは対照的な褐色の肌をもつルイズ（ナオミ・ワッツ）だ。デビッドが、夢中になったのはいうまでもない。ロットネス島に着いて、ビーチハウスに向

かう。ここには先にガース（フレイリップ・ホルダー）とジュリエット（ゾエ・バートラム）のカップルが待っていた。

六人は、島でのひとときを過ごすことになる。ここで、ハリーとエマは、みんなの前で重大な発表をする。二人は結婚するのだという。ハリーとエマはずいぶん歳差がある。そうだが、二人の決心は固い。しかも、ハリーは、この島にいる間に、早急に結婚したいという。その決心にはなみなみならぬものがあって、みんなを当惑させる。エマも結婚式を島で挙げるといふことに迷いはない。

早速ハリーは島の役所や教会に出掛け、結婚式の交渉を行うのだが、式を行うためには、よそからリゾートにやってきた二人は、正式な書類申請や、牧師の手配の都合もあって、島の滞在期間中にはできそうもない。

そこでハリーは、デビッドが船長であり、結婚式を正式に認められる資格があることから、とうとうデビッドを説得し、島の丘にあった人のいない教会で結婚式を挙げることを決めてしまう。実はその早急な結婚には、エ





マの重大な秘密があった。

周りの四人は、ハリーとエマの願いを聞き入れ、結婚式の準備をする。それは、まったくの手作りの結婚式なのである。四人は二人のために、結婚式に必要な道具や食べ物を注文し、その晴れの日のために準備にかかる。

新郎、新婦、そして船長と付き添いにも、ページュを基調にした服が手作りで作られた。でも、うっかり新婦の靴を忘れた。結局は、裸足で、小さな教会で、たった六人の、しかし祝福と慈愛に満ちた結婚式が行われる。

さて、結婚したハリーとエマがビーチハウスに戻ると誰もいない。入り口には、なかったはずの新婦のヒールが置いてあり、そこにはページュの布が砂の中からのぞいている。砂の中の布を二人が引っ張ると、それは砂の中に長く長く埋まっていた、それをたどっ

ていくと、浜辺に立てられた幕へと続き、その幕の壁を伝っていくと、大きな布の館、入口には風船の山で、そこを潜ると……。なんと、四人の他に町の人々や、大道芸の人、料理人が待ち受け、音楽と食べ物と拍手という、祝福が待ち受けていたのだ。

エマが喜んだのはいうまでもない。やがて黄昏、布の館の裏にハリーはエマを連れ出すと、サイドカーにエマを乗せ、浜辺へと向かう。着いたのは明かりを四方に放つ灯台の下。そこで、ハリーは灯台を指して、エマに告げる。

「世界最大のダイヤモンドを君へ贈ろう」

美しい美しい、おとぎ話にも思える、このウエディングは、やすらぎをもたらし、素晴らしい思い出になるだろう。それほどに、豊かな光彩に満ちあふれているのである。

『ラスト・ウェディング』 UNDER THE LIGHTHOUSE DANCING

(1996年 オーストラリア映画)

監督=グレアム・ラティガン

出演=ジャック・トンブソン/ジャクリン・マッケンジー/エデン・ジレット/ナオミ・ワッツ/フィリップ・ホルダー/ゾエ・バートラム

配給=シネマテン 8月下旬シネスイッチ銀座にて公開